狩野羽北　かのう　儒者。文政八年出羽國生れ、明治二十九年十一月十四日歿（一八二五―一九〇六）。講長知、字君達、幼名國松、通稱深藏。別號廣居。十二歳で藩の博文塾に入り、十六歳で「孝子隱說」を著はす。嘉永二年江戸に出て佐藤一齋、鹽谷宕陰、藤森弘庵に學んで歸鄉、安政元年父に隨行して再度江戸に赴き、時勢の刺戟を受けて『三策』を執筆、東北遊歷中の吉田松陰の目に留り、持ち返つてのち公出版（明治元年十月松下邨塾藏版、河内屋吉兵衛・吉野屋甚助・田中屋治兵衛出版）せられた。文久元年久保田藩鷹明德館に入り、領主佐竹大和の親任を得て家臣となる。狩野亨吉の父。

他に『支那教學史略』全二冊（明治二十四年十一月）、『狩野氏藏版、吉川半七刊）、『先憂文編』（狩野德藏編、明治二十九年十一月十五日吉川半七刊）等。